



専門的能力要素の学修到達目標に対する学修成果の評価指標

※到達レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

到達目標の詳細は、「キャンパス・ライフ・ハンドブック」を参照。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】(態度・志向性)	マイルストーン			キャップストーン Level 4
	ベンチマーク Level 1	Level 2	Level 3	
1) 食と福祉と多文化にまたがる複合的分野に対して、自ら積極的に興味を持って学修でき、「知識と技術の横のつながり」を人々への生活支援のために自律的に発揮できる能力を有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で生活している人々への支援活動を行うことが、将来の自分の仕事であるとの自覚と意識を持っている。</li> <li>人々の生活支援に対して、「食生活に関する分野」と「福祉生活に関する分野」と「多文化下の生活の多様性に関する分野」での知識と技術の横のつながりの必要性を認識し、その修得に興味を持つことができる。</li> <li>人々の生活支援に対して、「いのち(生きること)の大切さ」と「くらし(安全で安心な日々の営み)の大切さ」と「人生(人が生れてから死ぬまでの各ライフステージ)のあり方」に興味を持って考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で生活している人々への支援活動の方法について、現在自分が学修している知識と技術を、ある程度具体的に対応させて考えることができる。</li> <li>人々への生活支援活動に対して、自分が専門とする「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の各専門知識と技術を主体的に活用すると共に、他領域の人とのコミュニケーションや知識を複合化して、多様な対応ができる柔軟性を有している。</li> <li>人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を効果的に結び付けることを企画することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活者への支援活動と地域の活性化活動に対して、自分が修得している知識と技術をどのように活かして貢献できるかを明確に示すことができる。</li> <li>人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識と複合化してサポートすることに主体的に率先して具体的に対応ができる。</li> <li>人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を的確に適用して実践的な立案と計画を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活者への支援活動と地域の活性化への貢献に対して、自分が修得した専門知識と技術をどのように活かせるかを明確に考え、自分の将来の職業としてのグランドデザインが描け、具体的な職種として明確に提示することができる。</li> <li>地域の人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識や異なった分野の人と協調して複合的に活用して実践対応ができる。</li> <li>地域の人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや多様な生活嗜好およびライフスタイルなどに対応して、学修した知識と技術を的確かつ柔軟に適用して実践的に行動できる。</li> </ul>
2) 地域文化を理解・継承しながら、多様な人々の幸せと生活向上に自律的に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化とは何か、人々の幸せとは何かを考えることができる。</li> <li>地域学修体験は指示に従って予習等ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の文化と海外の国の文化の違いを理解することができる。</li> <li>文化の違いがどのような問題を生じているか、あるいは生じてきたかを考えることができる。</li> <li>地球のグローバル化と異文化との関連を考えるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会の人々や海外からの人々との交流を基に、幸せの意味の味や、生活向上についての取り組みを自ら考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域文化や世界の文化について、学生が自ら考えた内容を公に発表することができる。</li> </ul>
3) 国際社会の推移を注意深く観察し、グローバル社会に積極的に参画できる人間性を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞やウェブを活用して世界の動きを観察する習慣を身につける。また、世界の人々との交流のために必要なスキルを磨き、社会に溶け込む方法を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マスコミ情報等を吟味し、世界の出来事と日本の文化習慣との関連を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の重要な出来事をまとめ、学生が自分の考えとの関連を見つけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の重要な出来事をまとめ、その問題点を提起し、学生が自ら考えた解決方法を発表することができる。</li> </ul>
【教養ある専門職業人としての基礎力】(知識・理解)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 地域の特性に密着した日常レベルでの衣・食・住を根幹とした生活科学分野と人文・社会・自然の各科学分野とを連携した複合的知識と技術を有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の衣、食、住などのローカルな文化にも興味を持って学修でき、地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。</li> <li>一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)に興味を持って学修でき、それを地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。</li> <li>地域文化と異文化を融合して、シームレスな国際化社会で活躍していくことの重要性を理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を理解でき、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていくかを具体的に示すことができる。</li> <li>一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を理解でき、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていくかを具体的に示すことができる。</li> <li>地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に複合的に活用する方法を具体的に考えて示すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。</li> <li>一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。</li> <li>地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に活用する方法として、ある程度複合的に活用して実践することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のローカルな生活特性と人々の多様な考え方やライフスタイルを尊重しながら、身に付けた豊富な教養知識を自然態で活用して、生活支援の専門職業人として社会で活躍できる自信がある。</li> <li>修得した教養を実践的に活用し、ホスピタリティ精神(おもてなしの心)溢れる柔軟な対応で、「食」や「福祉」や「多文化」の各分野での専門職業人として、社会貢献と地域の人々への生活支援活動ができる具体的な職業へのグランドイメージ(人生設計)を示すことができる。</li> <li>地域の衣、食、住などのローカルな諸文化知識と人文、社会、自然科学分野の基礎教養知識を複合的に連携しながら、地域の人々の生活の質(QOL:Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)としての具体的な職業に就く強固な意志を持っている。</li> </ul>
2) 世界に展開できる人間性をもった社会人として必要な体力、語学力(英語、中国語、ハンダ語等)を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい日本語の使い方を復習しながら、英語、中国語あるいはハンダ語等を日常の生活用語を身につける。</li> <li>日常的に外国語を学修する方法を検討し、自分に合った方法を見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した外国語を使って、海外からの留学生、訪問者と日常のコミュニケーションができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した外国語を使って、食、福祉の専門用語が使えるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した外国語を用いて、自ら提起した特定のテーマについて、発表できる。</li> </ul>
3) 海外の国々や日本の文化を素直に理解し、認め合う社会人となるための情報を的確に収集・発信できる力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞やウェブを見る習慣を身につける。</li> <li>毎日の重要な出来事をメモし、ファイルとして保存する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外からの留学生、訪問者と交流し、日本文化の特徴を発信できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した外国語を使って、海外からの訪問者と文化について話し合える環境を醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した外国語を用いて、自ら提起した特定のテーマについて、発表できる。</li> </ul>
【専門職業人としての汎用的能力】(技能・表現)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) どのような状況の変化と人々にも対応できる食と福祉と多文化にわたる汎用性のある知識と幅広く活用できる技能および柔軟な人間性を持った有機的な生活支援ができるコンシェルジュにふさわしい能力を有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の学修も持っている。</li> <li>地域の特性と人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への生活支援活動ができるための学びの準備が進んでいる。</li> <li>関連する異なる学問領域の専門家と協働しながら、自分のプロとしての知識と技術を活用して、地域の人々への生活支援がしたいとの強い意志を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の学修も持っている。</li> <li>地域の特性と人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への生活支援活動ができるための能力が身に付いてきている。</li> <li>関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協働しながら、地域の人々への生活支援のプロとしての知識と技術の修得が順調にできている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などを合わせて広範な支援能力が身に付いてきている。</li> <li>地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるための能力が身に付いてきている。</li> <li>関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協働しながら、地域の人々への生活支援の汎用的専門家(コンシェルジュ)としての知識と技術の修得も順調にできている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の根幹とする知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などの修得ができており、専門職業人として、および汎用的立場での広範な生活支援能力が身に付いている。</li> <li>地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるコンシェルジュとしての自覚も持っている。</li> <li>関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達共、自己の専門性を活かしながら協働連携して、地域の人々に対して多様な生活支援が汎用的専門家(コンシェルジュ)としても可能な広範な知識と技術の修得と蓄積ができています。</li> </ul>
2) 食と福祉の視点を持ち、ホスピタリティ精神にあふれる生活支援ができるスキルを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本文化に根ざしたおもてなしの心の本質を考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和食の良さや日本の福祉政策について情報を収集し、地域の生活支援の在り方を検討することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和食の良さや日本の福祉の在り方をまとめ、学生のおもてなしのスキルを高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修得したおもてなしのスキルを地域社会や海外からの訪問者に対して実践できる。</li> </ul>
3) 基礎語学(日本語、英語、中国語、ハンダ語等)を活かし、海外からの留学生、観光客、地域の人々と異文化交流ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義以外で最適な語学学習方法により、自ら進んで外国語を学修する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生や海外からの訪問者と積極的にコミュニケーションし、その経験を蓄積する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修している外国語を用いて、地域の人々と海外からの人々とのコミュニケーションの構築を経験することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修した外国語を活かして地域の人々や海外からの訪問者と異文化交流ができる。</li> </ul>
【地域生活を支援し、創造する力】(行動・経験・創造的思考力)	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
1) 生活の要素を科学的に分析・把握することにより生活全般を見渡せる俯瞰能力を身に付けており、経験をもとにした創造的発想ができる。「マルチに学び、マルチに活動する」生活支援のプロフェッショナルにふさわしい能力を有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活性化と生活支援活動には、人々の具体的生活実態についてのデータを科学的に分析する必要があることが理解できている。</li> <li>地域の人々のライフスタイルは、非常に多様化しており、その一端のみを垣間見ることでは把握できなく、より広範な生活全般(いのち、くらし、人生)を広い視野から俯瞰的に見渡す能力が必要であることへの認識ができています。</li> <li>現在学んでいる基本的知識と技術を実践的生活支援活動に活かすためには、経験知と経験を下地にした技能が必要であることへの認識を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活性化と人々への生活支援活動を行うためのデータの収集方法および科学的に分析する手法などの個々具体的な方法を使用することができる。</li> <li>地域の人々の非常に多様化したライフスタイルを、「食」と「福祉」および「多文化」を基盤とし、さらに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを複合的に組み合わせることで、俯瞰的に対応できる能力の修得ができています。</li> <li>現在、座学(主に講義授業)をもとに学んでいる基礎的知識と技術に加えて、演習や実習などから得る体験的知識と技能などが身に付き始めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析活動の具体的な計画の立案と企画ができる。</li> <li>地域の人々の非常に多様化したライフスタイルに対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせることで、多面的(マルチ)に考え、学修に臨むことができる。</li> <li>学内、特に学外での地域連携活動を活動フィールドとした演習や実習授業で体験的に修得した実践的知識と技能などが着実に身に付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析から得た結果を精密に考察した上で、さらに自分なりの考えで人々へのより効果的な支援活動に乗り出すための斬新な発想ができる。</li> <li>地域の人々の非常に多様化したライフスタイル志向に柔軟に対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「くらし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせることで多面的(マルチ)に実践行動することができる。</li> <li>学内、特に学外フィールドでの地域活性化活動および人々の生活の質(QOL:Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)として、実社会での活躍ができる実践能力を持っている。</li> </ul>
2) 地域の人々と積極的に交流し、地域の人々のニーズを的確に把握し、問題解決のための行動ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで培ってきた地域の人々との交流実績を学び、地域生活を支援するための問題、課題を抽出することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との交流において、これまでに課題として残されてきた問題について効果的な解決方法を検討できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交流の問題解決方法を提案し、実践に移すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践した問題解決方法を検証し、次の交流に繋げることができる。</li> </ul>
3) 地域の人々や海外からの人々との交流により得られた文化、生活情報を分析し、次の行動指針にできる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生や海外からの訪問者が地域の人々どのように交流できるかについて、提案できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化をもった海外の人々と地域住民の意識の違いを把握しながら、異文化交流の重要性を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異文化から生じる生活様式の差異等をまとめ、交流の意義を広める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生や海外からの訪問者や地域の人々とこれからの交流の在り方を議論し、次のステップに繋げることができる。</li> </ul>

I 【主体的・自立的に行動できる 確かな人間力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
		Level 2	Level 3	
① 自己の心と体の状態を把握し、健康な生活管理を図ることができる。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを少しは持っている。健康な生活管理を少しは意識している。自分のライフスタイルについて少しはイメージできている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を少しは得ようとしている。日常の様々なストレスへの対処は十分でないが、自分のライフスタイルのイメージに合わせて健康な生活管理を意識して、少しは管理できている。	規則正しい生活習慣を身につけようという考えを持っている。自分の健康について必要とする知識を得て生活管理に努めている。自分のライフスタイルを把握しており、健康な生活習慣を意識して、少しは管理できている。日常の様々なストレスを理解しており、その改善に努めている。	自分の心と体の健康状態を理解して、健康維持のために規則正しい生活管理に努めている。将来展望のなかで、自分のライフスタイルを把握しており、生活習慣は継続して管理できている。日常の様々なストレスへの対処が十分できており、継続して良好な健康を維持できている。
② 自己の良心と社会の規範やルールに則って行動できる。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っているか、またはその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにしている。明らかな倫理的問題や社会的ルールは浅いが認識している。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見を把握できる。明らかな倫理的問題や社会的ルールは認識しており、それらの関係性のある程度把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念を持っており、かつその由来を明確に言える。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、十分だがそれに対する自分の答えがある。倫理的問題や社会的ルールの背景を知っており、それらの複雑さや関係性を把握できている。	社会倫理の規範やルールに則った行動について、自分の信念とその由来を詳細に自己分析し、議論を深めて明確にしている。社会における自分の立場を明らかにし、異なる視点や相反する意見の前提や含意を述べることができ、それに対する自分の主張を合理的に、十分かつ効果的に答えられる。複雑な倫理的問題や社会的ルールが示されてもこれらを把握でき、それらの複雑さや関係性を理解して行動がとれる。
③ 主体的に、自らを律して行動するとともに、目標実現のために協調・協働して行動できる。	グループなどの集団的活動において、一員として考えを共有できる。分担する課題解決は締切りまでに完成できる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。分担する課題は締切りまでに完成できる。その成果によって、グループの課題解決を前進させることができる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションあるいは肯定的な態度が示せる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。他者の考えに基づいた代替的な解決法や行動計画を提案することができる。分担する課題を締切りまでに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要性をチームワークへの貢献を表明し、チームを動機づけることができる。	グループなどの集団的活動において、考えを共有し、グループの協同作業を前進させる働きかけができる。代替的な提案の長所を明確にし、チームの前進を助けることができる。分担する課題を締切りまでに完成させることができる。その成果は徹底的で包括的であり、プロジェクトを前進させる。関わりのある他者に対しては、礼儀正しく、建設的なコミュニケーションを行い、肯定的な態度を示している。課題の重要性をチームワークへの貢献を表明し、メンバーに励ましや支援を与えることができる。
④ 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。	種々の市民的活動に参加したことは少しはある。自分のなかで諸活動の意味を少しは見つめ直すことができる。社会の一員として、周囲の人との関わりを持つよう心掛けている。	種々の市民的活動に参加したことがある。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、未だ市民意識の感覚からではないが、自分のなかで活動の意味を見つめ直すことを考え始めている。	種々の市民的活動に積極的に参加している。参加した活動は、教育の一環での参加であり、自分の学修成果となっている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分のなかで活動の意味を見つめ直し、何を学んだかを振り返り述べるようになることができる。	多様な市民的活動に積極的に、かつ継続的に参加している。参加した活動では、リーダーシップや役割をもって、自立的に参加している。参加した活動からは、自分の学修成果を得ている。活動への参加は、市民意識の感覚からであり、自分の行動について、目標設定や遂行への省察や分析を行い、何を学んだかを振り返り述べるようになることができる。
⑤ 生涯にわたって自律・自立して学習できる。	与えられた課題等を仕上げることができる。授業の到達目標を考え、そして知識の追求に興味を持つ。その探求レベルはまだ浅いと言える。	与えられた課題等を仕上げることができる。授業の到達目標の先にある関連する知識を自ら追求することに興味を持つ。その探求では、成果を示すことができる。成果では、部分的だが考察し、授業外の異なる状況に応用することを少なからず述べている。	与えられた課題等に興味を持って探究することができる。仕上げることができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求している。これまでの学びの成果を振り返り、授業外での異なる状況に応用することができ、その成果を示すことができる。	与えられた課題等に強い興味を持って探究することができる。仕上げることができる。授業の到達目標の先にある関連知識を自ら探求し、自己の能力を拡大する機会を授業以外にも設けて追求している。
II 【教養ある専門職業人としての基礎力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 社会生活・職業生活にとって意味ある知識を獲得し、総合的に理解・使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達率が概ね 60%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解し始めている。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達率が概ね 70%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な能力の必要性を理解しており、また将来の職業生活に向けて、専門以外の分野とのつながりに関して意識し始めている。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達率が概ね 80%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、汎用的な知識や技能を学修に努めており、日常生活において時折、総合的に知識を使用することができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達率が概ね 90%以上獲得できている。将来専門職業人となる社会の一員として、授業以外でも汎用的な知識や技能の獲得に自ら努めており、日常生活の場面で、総合的に活用している。
② 専攻する特定の学問分野における知識を体系的に獲得することができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達率が概ね 60%以上獲得できている。専門分野の個々の学修は最低限度達成している。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達率が概ね 70%以上獲得できている。専門分野の個々の学修はある程度達成しており、それらのつながりについて体系的に理解し始めている。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達率が概ね 80%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を少しは考えることができる。	修了学期末において、専門的能力要素【知識・理解】及び【技能・表現】の学修到達率が概ね 90%以上獲得できている。専門分野の個々の学修を達成しており、それらのつながりについて体系的に獲得する必要性を理解している。専門とする学問分野に対し、自分の見方を明確にして、創造的に活用できている。
③ 上記知識体系を外部的視点で捉え返すことができるとともに、自己と関連付け洗練していくことができる。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と、自分の興味とのつながりを見出し、学問的な関係性を把握している。修得した知識・技能を新しい状況で用いると試みている。	自分が学んできた上記①②の知識において、生活経験と学問的な知識との類似性や違いを比較し、自分とは異なる見方や考え方も認めている。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用いることができる。	修学期間中に学んできた知識の枠組みを明確にするために、様々な状況のなかから生活経験の例を考るために発展的に考えることができる。修得した知識・技能を、新しい状況のなかで課題や問題点の発見や理解に用い、適用して応用することができる。	学問分野での理解を深め、自分の見方を広めるために、授業外の諸経験の間のつながりを意義深く統合できる。修得した知識・技能を、難しい問題の解決や、複雑な課題の探索のために、新しい状況でオリジナルな方法で適用して応用することができる。
III 【社会人としての汎用的能力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 確かな日本語に加え、一つ以上の外国語を用いて、読み、書き、話すことができる。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 60%以上で獲得している。テキストの情報を適切に捉え、言い換えや要約することができる。文章作成の課題に対し、用語法を誤るが、ある最低限は注意を払う。基本的構成や提示において一貫した体系を使っている。会話において、中心的なメッセージは何か伝えることができる。構成がなっていないが、プレゼンテーションはできる。話術は相手の理解の妨げとなっていないと考えられる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 70%以上で獲得している。テキストの情報を評価し、文脈や目的について、基礎的な推論ができる。与えられた課題を自覚し、特定の学問や文章作成課題に求められるルールに、幾つかの誤りがあるが従うことができる。会話において、中心的なメッセージは基本的な構成を伝えることができる。プレゼンテーションには構造的な構成が少しはできている。話術においては、まだ自信をもって話すことができていない。	修了学期において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 80%以上で獲得している。テキストの情報に対して、より複雑な推論を行うために、一般的及び特定の知識を使用している。与えられた課題に明確に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる重要なルールを、一貫性をもって使用することができる。文章の誤りは減少しない。話において中心的メッセージは明確であり、プレゼンテーションには一貫した構造的な構成ができる。話術においては、相手と興味深く聞かせることができる。	修了学期末において、汎用的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 90%以上で獲得している。テキストの情報を超える問題に対して、テキストが含意するものを認識している。与えられた課題に対応し、あらゆる要素に焦点をあて、特定の学問や文章作成課題に求められる広範なルールに細かな注意を向け遂行することができる。文章の誤りは殆どない。話において中心的メッセージは説得力をもっている。話術は洗練しており、プレゼンテーションは説得的である。相手の反応から自信を持って対応することができる。
② 自然や社会的事象について、図表等のシンボルを用いて分析、理解、表現することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 60%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報解釈・結論を少しは説明ができる。結論にまで結びつかないことがあるが、データの量的分析を初歩的な判断根拠として使用できる。単純に情報の変換は完遂することができる。 ※学生ポータルサイトに記される学修到達度を参照。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 70%以上で獲得している。自然や社会的事象について、小さなミスはあるが、科学・数学的形式の情報のある程度正確に説明できる。データの量的分析を、直感やひらめきを伴わない判断根拠として使用でき、十分でないが結論を導くことができる。情報の変換は完遂することができるが、その結果である科学・数学的表現は部分的に適切あるいは正確である。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 80%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明することができる。データの量的分析を、確かな判断根拠として使用でき、十分な量的分析を、適切な情報を適切な科学・数学的表現に変換することができる。	修了学期において、汎用・基礎的能力要素【技能・表現】の学修到達率を概ね 90%以上で獲得している。自然や社会的事象について、科学・数学的形式の情報を正確に説明でき、これを土台とした適切な推論を立てることができる。データの量的分析を、思慮深く判断し使用でき、結論は入念で洞察に富んでいる。適切な情報をさらに深い理解に寄与するような方法で、洞察に富んだ科学・数学的表現に巧みに変換することができる。
③ ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。	基本的な ICT 活用ができる。手当たり次第に情報にアクセスし、本質に欠けた情報検索をしている。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ、要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の1つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて程度のある ICT 活用ができる。単純な検索方略を用いて情報にアクセスし、限られたソースから情報を検索することができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ、要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の2つは正確に使用できる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて十分 ICT 活用ができる。多様な検索方略で、関連する情報ソースから情報を検索することができる。検索を絞り込むことができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ、要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の3つは正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。	情報の使用に応じて効果的に ICT 活用ができる。十分検討した検索方略で、適切な情報ソースを効果的に使用し情報にアクセスすることができる。情報の使用方法(引用・出典、パラフレーズ、要約・引用の選択、文脈との照合、常識・帰属アイデアの区別)の全てを正確に使用することができる。所有権情報等の種別情報の使用に関する倫理的法的な制限について十分理解している。
④ 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	自分の見解を示す際に、現在の仮定に基づき、文脈の幾つかを同定し始めている。(選択された情報)ソースからの情報を、意図する目的まで到達できていないが、断片的に使用できる。	自分の見解を示す際に、仮定の幾つかを批判的に捉えることができ、重要な幾つかの関連性を同定することができる。自他の仮定・関連性に意識を向けている。ソースからの情報を発信し、組織化することができる。情報は統合されていないが、意図された目的はある程度は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定や幾つかの関連性を同定することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し、統合でき、意図された目的は達成できている。	自分の見解を示す際に、自他の仮定を体系的・方法的に徹底的に分析し、関連性を慎重に評価することができる。ソースからの情報を発信し、組織化し統合でき、意図された目的は完全に達成できている。
⑤ 問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題に的確に対応できる。	自ら問題を発見するには至らないが、指示に従って問題に対応することができる。	指示に従って問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチアクションやテーマの範囲を不完全に限定して、問題を発見し、鍵概念を決定できる。(選択された情報)ソースを概念的な部分に関連付け、リサーチアクションに答えることができる。	指示に従って、能動的に問題に対応することができる。自ら問題を発見することができる。リサーチアクションやテーマの範囲を十分に限定しており、問題を発見し、鍵概念を決定できる。ソースを概念的に関連付け、リサーチアクションに答えることができる。	指示に従って、問題に対応することができる。リサーチアクションやテーマの範囲を効果的に限定しており、鍵概念は決定できる。ソースを概念的に直接に関連付けるか、リサーチアクションに答えることができる。授業外の他の事柄に対して、自分に関係する問題を発見し、創造的に対応することができる。
IV 【地域生活を支援し、創造する力】	ベンチマーク Level 1	マイルストーン		キャップストーン Level 4
① 上記 I～III の態度・志向性・知識・技能の知識を総合的に活用し、個人の職業生活及び社会生活のクオリティ向上を図ることができる。	自分のパフォーマンスを、成功か失敗かという一般的な記述で認識している。生活経験と、自分の興味との類似性や関連性が認められるアカデミックな文章やアイデアとのつながりを同定することができる。	自分の強みと課題を明確に表現し、別の文脈での有効性を高めている。生活経験とアカデミックな知識を、差異と類似性を判断するために比較し、自分とは異なる見方も認めることができる。	学修による自分の変化を正しく評価しており、複雑な文脈要因を認識している。学問分野の枠組みを明確にするために、様々な文脈から生活経験の例を効果的に選び、発展させている事例を示すことができる。	複雑な社会の下に置かれる将来の自分を現実的に思い描くことができる。学問分野での理解を深め、そして自分の見方を広めるために、生活経験や授業外経験などの諸経験とのつながりを意義深く統合していることが、実例で示すことができる。
② 地域での実践活動をもとに、上記 I～III の知識・技能・態度・志向性を総合的に活用し、自発的に地域課題を解決することができる。	ボランティアなどの市民的活動を体験しており、自分の経験によって得た事例について十分ではないが示すことができる。グローバルな関心事に対し、自分の内面で少しは考えている。	市民(プレ社会人)としてははっきりとした態度をもって参加・活動できる。コミュニケーション(プレゼンテーション)、傾聴力、対話力、話術等)の一つ以上の要素をきちんと備えている。グローバルな問題を構成している複雑な関係を検討し、社会的・文化的な影響への考えを少しは持っている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。相手との円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探索を行うなかで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。	市民的な活動において、態度を明確にし、目標をもって自立的に経験でき、その成果を示すことができる。変容する異なる状況においても円滑なコミュニケーションがとれる。学問的な概念と枠組みを用いて情報を収集し、グローバルな問題に対する対応への探索を行うなかで、地域課題の解決のアプローチとの比較検討を行っており、課題に対する自分の判断を明確にしている。
③ 上記 I～III の知識・技能・態度・志向性の総合知識を統合し、個人の人間性の高揚を高めていくことができる。	個々の学びについて断片的、あるいは浅いレベルで振り返っている。	これまでに学んできたことの意味を多少は明確にし、以前(入学前)よりもある程度の視野を広げている。これまでの学びのある程度の深さで再検討している。	これまでに学んできたことの意味を十分に明確にしており、以前よりも広い視野をもって深く振り返っている。自己の人間性の向上を図ることについて考えている。	これまでの学びを明確に参照し、異なる状況に革新的に応用することができる。これまでの学びを深く再検討することで、視野を変化させ、長期間にわたって自己成長・成熟を拡張するための基盤をもっている。

